

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 23 日現在

機関番号：35502

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2015

課題番号：25590248

研究課題名(和文) フランスのインターンシップ研究 なにがインターンシップの良し悪しを決めるのか

研究課題名(英文) Internship in France

研究代表者

五十畑 浩平 (ISOHATA, Kohei)

徳山大学・経済学部・准教授

研究者番号：10610579

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：フランスでは、高等教育におけるインターンシップが社会に浸透し、教育的意義があり若年者の社会への参入を促進するものから、教育的意義が欠如しかえって若年者の社会への参入を妨げるものまで、多種多様のインターンシップが存在している。いったい、どういった要因がインターンシップの「良し悪し」(＝インターンシップの効用)を決定するのであるか？フランスの豊富な統計データとフランスの高等教育機関などを現地調査により、インターンシップの効用を決定する要因を特定した。

研究成果の概要(英文)：In France, there are many kind of internships in higher education; some help youth incursion, other on the disturb it. What make the difference? With many statistic datas and field works in France, I finally found the factors.

研究分野：教育社会学

キーワード：インターンシップ フランス 高等教育 キャリア

1. 研究開始当初の背景

わが国では近年、キャリア教育・職業教育の充実などが訴えられ、その一環として、大学をはじめとする高等教育機関では、企業・行政機関などで実務を体験するインターンシップが徐々に導入されはじめた。

たしかに、インターンシップの参加件数は年々増加しているものの、現行の新卒一括採用制度の枠組みでは、長期間のインターンシップは現実的に難しく、日本では本格的な導入には至っていない。

一方でフランスでは、高等教育におけるインターンシップが社会に浸透し、教育的意義があり若年者の社会への参入を促進するものから、教育的意義が欠如しかえって若年者の社会への参入を妨げるものまで、多種多様のインターンシップが存在している。

2. 研究の目的

上記のような玉石混交のインターンシップのなかで、どのような要因がインターンシップの効用を決定するのかを検討することが本研究の目的である。

3. 研究の方法

フランス現地における高等教育機関でのインタビュー調査および統計データの分析によって、総合的にインターンシップの効用を決定する要因を特定する。

4. 研究成果

フランス独自の高等教育システムや労働市場によって、フランスのインターンシップは多種多様であり、優れたインターンシップが存在する一方で、問題となるインターンシップが横行していることが明らかとなった。

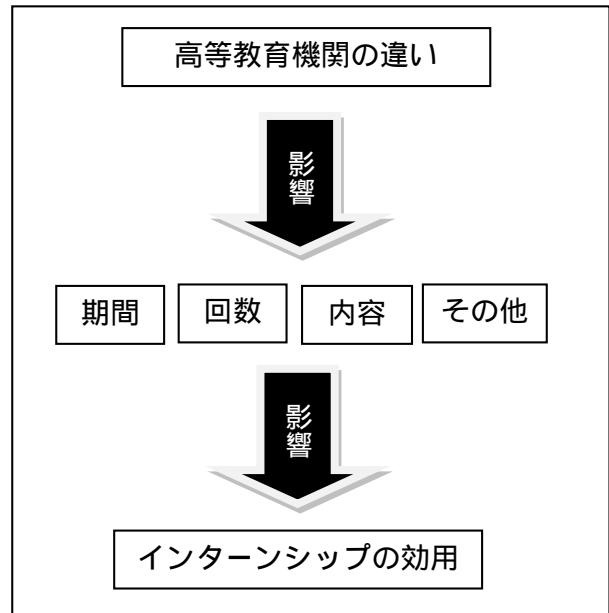
とりわけ、フランス独自に発達した複雑な高等教育システムが、フランスのインターンシップに「光」と「影」を与えている。

フランスの高等教育には、中世以来の伝統を誇る大学と、18世紀末以降産業革命と歩調を合わせて次々と創立され、それ以降「エリート」を輩出してきたグランドゼコールが存在しており、相互に際立った対照をなす二元性こそがフランス高等教育の最大の特徴と言われている(原田ほか(1988)、137ページ)。

一方で、グランドゼコールでおこなわれるインターンシップは質が高く、他方、大学で行われるインターンシップには多くの問題があることが判明した。

このように、インターンシップを実施する高等教育機関によってインターンシップの期間、回数、内容が大きく変化し、その結果、インターンシップの質、またインターンシッププログラムに対する評価にも大きく影響することが判明した(図1参照)。

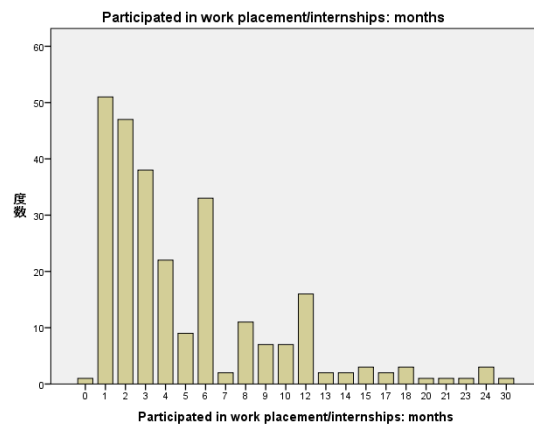
図1: 概念図



例えば、図2のとおり、大学とグランドゼコールとは期間に大きな違いが出ている。

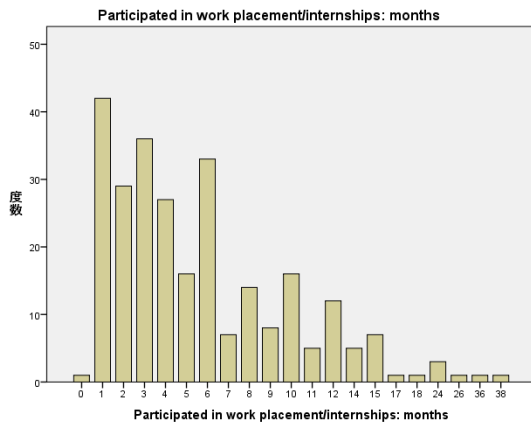
図2: 高等教育機関ごとのインターンシップ期間

学士(Licence)



(出所)Reflex データより筆者作成。

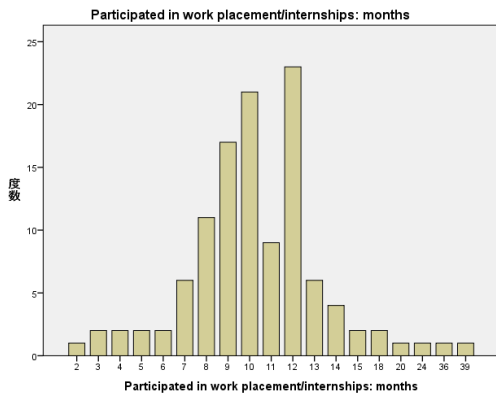
修士(Maitrise)



(出所)Reflex データより筆者作成。

グランドゼコール

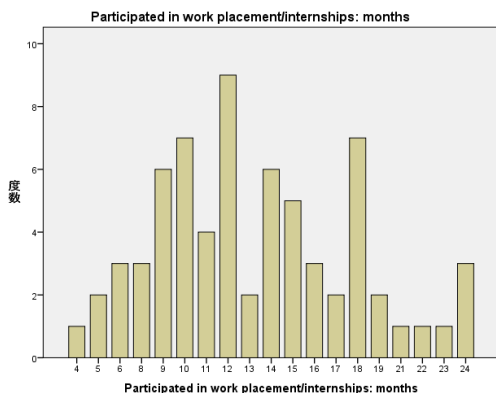
工科大学校(Ecole d'ingénieurs)



(出所)Reflex データより筆者作成。

グランドゼコール

商科大学校(Ecole de commerce)



(出所)Reflex データより筆者作成。

このようにインターンシップの効用に大きく差が表れる要因は、さらにさかのぼれば、学生の大衆化にともない、就職対応を試みた大学をはじめとする高等教育機関が、カリキュラムの職業教育化を急ぎ、無批判にインターンシップを導入したことと大いにかかわっている。

フランスのこうした歴史的事実を鑑み、ひるがえって、我が国のインターンシップの状況を考える際、インターンシップへの過剰な期待やインターンシップ活用の急激な増加は、かえってインターンシップの質を低下させるとともに、ひいては、若年者の就職やキャリア形成に支障をきたすことにもつながるであろう。

<参考文献>

- ・ 五十畑 浩平(2010)、「フランスにおける企業研修 (stage en entreprise) - 近年の法の変遷をめぐって」佐藤清編著『フランス - 経済・社会・文化の諸相』、227-258 ページ、中央大学出版部。
- ・ 五十畑 浩平 (2011) [博士学位論文]『フランスにおける企業研修(stage en entreprise)の生成と発展 フランス社会への浸透とインパクト』。
- ・ 大場 淳 (2005a)、「欧州高等教育圏創設とフランスの対応 - 新しい学位構造 (LMD) の導入を巡って - 」『大学論集第 35 集』、171-192 ページ。
- ・ 大場 淳 (2005b)、「フランスにおける大学教育改革」『広島大学大学院教育学研究科紀要』、第三部第 53 号、341-350 ページ。
- ・ 大場 淳 (2006)、「フランスにおける大学教育の職業化 (professionnalisation) とその有効性」『広島大学大学院教育学研究科紀要』、第三部第 54 号、385-394 ページ。
- ・ 高良 和武 (2007)、『インターンシップとキャリア産学連携教育の実証的研究』学文社。
- ・ 原田 種雄・吉田 正晴・手塚 武彦・桑原 敏明 (1988)、『現代フランスの教育 - 現状と改革動向』早稲田大学出版部。
- ・ 吉本 圭一(2012a)、「序章 課題の設定 高等教育段階におけるキャリア教育・職業教育」『RIHE』第 117 号、1-17 ページ。
- ・ 吉本 圭一(2012b)、「第 1 章 大学における

インターンシップ・就業体験の日欧比較」

『RIHE』第 117 号、19-31 ページ。

5. 主な発表論文等

〔学会発表〕(計 1 件)

五十畑浩平「フランスのインターンシップによるキャリア開発効果の検証 グランドゼコールにおけるインターンシップを中心に」、日本インターンシップ学会第 14 回大会、北海道武蔵女子短期大学、2013

6. 研究組織

(1) 研究代表者

五十畑 浩平 (ISOHATA, Kohei)

徳山大学・経済学部・准教授

研究者番号： 10610579

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし